

## ⑧受託者企画事業の展開

SDGsのゴールに貢献する「しあわせの村」将来像を共有し、「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針」に求められる取り組みの推進に向け、「国内外の動物との共生に係るあらゆるステークホルダーが、神戸市のあたたかな共生社会構築に尽力できる」「こうべ動物共生センターで質の高い成果を上げ、その成果が広く神戸市民に行き渡り、情報発信される」仕組み創りを提案。以下の4つの事業を行い、先進的なセンター事業推進環境を整備し、PDCAサイクル（計画→実施→評価→改善）による高品質な「こうべ動物共生センター」運営を目指す。

### 【セラピー研究フィールド】（P.27～36参照）

- ・国内外の研究者の参画による「試み・開発の場」としてだけでなく、学生や企業等による「人材育成の場」として研究フィールドを構築してきた。
- ・しあわせの村における新たな取り組みの中で課題となっている「パラ・スポーツの振興」「認知症予防」「あらゆる子どもの成長支援」「アニマルセラピー」の全てにAAI（動物介在介入）が関わることができ、また、その研究手法については、様々なセラピーにも活用できるものであることから、将来的には「しあわせの村」と連携して、しあわせの村全体での「セラピー研究フィールド」として整備を進める。
- ・セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方については、P.27に記載。

### ◎令和4年度の取り組み

- ・アニマルセラピーの一環として「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を実施した。プログラム、研究内容等の詳細については、「アニマルセラピー」動物ふれあい事業の章（P.27～36）に記載。
- ・本事業においては、株式会社シーエーシー様のご協力により、犬に読み聞かせを行った子どもの動画撮影データについて、表情認識のAIを活用して分析を行った。



令和5年度はマウスシールドを着けずに実施し、読み聞かせの様子を撮影して、音声の録音を行う。

令和4年度に収集したデータを基に、人と動物の相互の影響を科学的に明らかにし、人に対する研究、犬に対する研究とも、さらに研究精度を上げるために引き続きデータの収集を行っていく。

## ⑧受託者企画事業の展開

### 【こうべ動物共生プラットフォームの構築】

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。

市民はサービスの受け手でもあり、送り手でもある。主体的に市民が関わることができ、神戸の市民力を向上させられるような仕組み創りを目指す。

神戸市民に向けて「質の高い動物と共生する暮らし」を実現していくには、動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップが肝要である。動物との共生に直接関わる者だけでなく、賛同する企業・団体・個人の参加も促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築する。

また、神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。研修・情報提供も積極的に行い、神戸市の動物との幸せな共生を支える「人材育成の場」としても活用する。

### 《こうべ動物共生プラットフォーム》

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築

#### 「試み・開発の場」「人材育成の場」

動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップのため、賛同する企業、団体、個人の参加を促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築。

※神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。

※各地域：地域包括支援センター／社会福祉協議会／自治会／病院／学校とも連携・協働



#### 将来的な展望

P.4の事業概念図で示したとおり、将来的にはプラットフォームに係る情報を市民に提供しつつ、新たなビジネス活性の機会を創出することも検討する。

#### 《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》

プラットフォームに係る情報を市民に提供し、交流の場を構築し、事業者にビジネス活性の機会を提供。

《専用ウェブ  
サイト》

内外への  
情報発信  
収集



#### ◎令和4年度の取り組み

動物取扱業登録事業者の方々を中心に関連する方々に呼びかけ、プラットフォーム構築の合意を得るまでを目指したが、令和5年度に持ち越しとなった。新型コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ、令和5年度には事業者向け研修としてのパピー教室開催等準備を進めていく。

## ⑧受託者企画事業の展開

### 【市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集】

① 専用ウェブサイトの更新・保守 (P.13～18「センターの管理・運営業務」に記載)

#### ② 出沒・こうべ動物共生センター（出張型事業）

防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、各区で年に1回、「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等を実施する。

共生センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集する。各地域の動物取扱業登録業者を中心に、プラットフォームのメンバー候補にも広く参加いただく。

この事業を通じ、各地域で「神戸市の幸せな動物との共生」に関心の高い市民を発掘し、各地域での密な連携が自律的に実現していけるような事業を行っていく。様々な課題解決にコミュニティーの力が再評価されており、このような事業を通じて市民力の向上とコミュニティー再構築にも寄与する。

**事業協力・課題解決 こうべ動物共生センター**

<b>一緒に暮らそう</b> ・保護動物の譲渡および見学	<b>一緒に学ぼう! For Kids</b> ・獣医師体験プログラム ・いきものといっしょ ・犬ともだちになろう ・「いのちの教育」プログラム	<b>参加してみよう!</b> ・お散歩診断 ・楽しくしつけを学ぼう ～ドッグスポーツにチャレンジ! ・介助犬と歩こう!	<b>お困りごと</b> ・獣医師等による電話相談 ・来所相談(予約制) ・パピーのお困りごと相談会
---------------------------------	--	--	---

**《出沒・こうべ動物共生センター（出張イベント）》**

防災イベントとコラボし、各区で年1回、しつけ教室、相談、身体障害者補助犬紹介を**イベント的に実施**。センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集。

センター  
を市民  
に広報

こうべ動物共生センターから遠方の市民も、自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。出沒イベントをとおして、市民ひとりひとりにセンターが認知される。

**市民 ひとりひとりに寄り添う課題解決**

#### ◎令和4年度の取り組み

出張型事業については、各区のまちづくり課等との連携を検討したが、新型コロナウイルス感染が収束しなかったため、令和4年度の実施は見送り、令和5年度に持ち越しとなった。令和5年度は各地域で開催されるイベントに出展する形での開催も考慮する。

## ⑧受託者企画事業の展開

### 【こうべ動物共生情報の提供・収集】

《こうべ動物共生プラットフォーム》と市民を有機的に「“つなぐ”場」「市民交流の場」を創出する。専用ウェブサイト上に、【《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》】を設ける。

《こうべ動物共生プラットフォーム》に係る情報を市民に提供し、交流の場を構築すると共に、事業者ビジネス活性の機会を提供する。

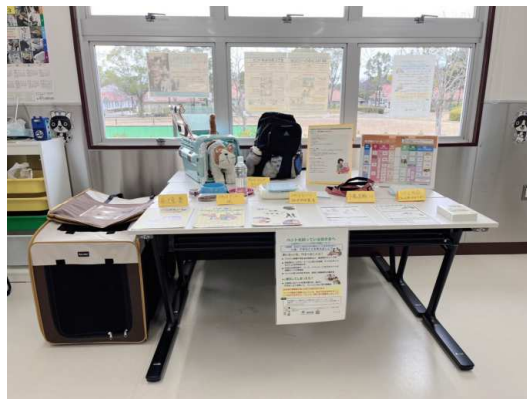
#### 《「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」での提供情報》

市民は、ワンストップで、自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。

1. 「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」 ペットとの暮らしを支える  
獣医療／ペットショップ／トリミングサロン／しつけ方教室／ドッグカフェ／ペットと入居可能な住宅や施設／ペットと泊まれる宿泊施設／保険／信託など
2. 「動物でつながる社会の豊かさ」  
イベント情報／動物に係る教育実施情報／その他情報交流
3. 防災情報  
ペットが入れる避難所／ペット用品を配布している拠点など

### ◎令和4年度の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大のピークが収束しつつあるので、令和4年度に実施することができなかった《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を、令和5年度から準備を進めたい。専用ウェブサイト情報提供コーナーを設け、神戸市の担当者と連携して防災情報の公開を開始したい。



阪神・淡路大震災発災の1月17日の前後2週間程度、ふれあい室にペットとの同行避難に関する展示コーナーを設け、避難グッズの展示を行い、市民への啓発を図った。

各事業を通して、交通の便、車を所有していない等の理由で共生センターに来所しにくい市民の声を聞く。各区での事業開催や、《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築により、どの地域に居住していても希望するサービスが受けられるような仕組みが期待されている。こうべ動物共生センターが窓口となり、市民の声を神戸市に伝え、相談・調整しながら仕組み創りを構築することで、市民が使いやすい窓口となるよう工夫する。